

普及センターだより



管内先進農家ほ場における露地野菜の栽培管理 (左) と奥久慈なすの出荷調製 (右) の現地研修



管内先進農家宅における枝物の出荷調製の現地研修

道の駅常陸大宮ひたマルシェ、
多品目栽培の推進

平成二八年三月にオープンした道の駅常陸大宮農産物直売所(愛称 ひたマルシェ)は、地元生産者の農産物にこだわり、四季折々の定番品目や多様な品目の野菜を販売しています。

出荷部会の会員数は二二〇名で、農産物の出荷拡大と多品目化を推進するため、野菜・切り花等の栽培講習会や現地ほ場研修会を開催してきました。

ミニカラピーマンやロマネスコ、カリフラワー、ロメインレタスなどの洋野菜は、カラフルで見た目がユニークとあって直売所の看板商品となっています。

また、品目を組み合わせた周年出荷をめざして、パイハウスを利用した春トマト・キュウリ、秋冬レタス等に取り組み生産者も現れており、今後の品揃えの充実が期待されます。



洋野菜コーナーのカラフル野菜



出荷部会の現地研修会

第五回茨城県茶業振興共進会
及び第一三回茶園品評会

平成二八年九月二九日に開催された『第五回県茶業振興共進会』(普通煎茶の部)(出品二八点、受賞六件)において、一等(関東農政局長賞)を大子町中郷の鈴木芳郎さんが受賞され、入賞した六点は、すべて大子町生産者で占める結果となりました。【深蒸しの部】出品九二点、受賞一四点では、五点が大子町からの入賞となりました。

また、『第一三回茶園品評会』(および五年おきに開催、十月五・六日に審査実施、受賞九点)で、『可搬型』(一等(県知事賞)を大子町左貫の高信修一さんが受賞され、ほか四点が大子町からの入賞となりました。褒賞授与式は十一月二三日に猿島郡境町で開催され、県内茶産地の中でも、大子町「奥久慈茶」の優良茶葉生産及び製茶技術の高さがうかがえる好成績となりました。



第55回茶業振興共進会
褒賞授与式

イネ縞葉枯病に注意しましょう

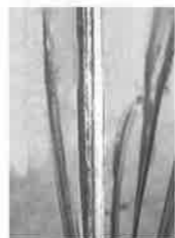
近年、県内各地でイネ縞葉枯病の発生が確認されており、県北地域でも増加しています。この病気は、ウイルスを持つヒメトビウンカに吸汁されることで感染します。

症状は葉に黄白色や黄緑色の縞が入り生育不良になります(写真)。生育初期の感染では新葉がたれ下がって枯れ上がり、中期以降の感染では、穂が出すくみ(穂軸や枝梗が波状に湾曲して不稔となる)、減収します。

【防除について】

イネ縞葉枯病そのものを防ぐ農薬はないため、伝染源であるヒメトビウンカを防除します。ヒメトビウンカやウンカ類に登録のある水稲育苗箱薬剤剤を使用しましょう。また、ひこばえや畦畔雑草はヒメトビウンカの越冬場所となるため、収穫後早めの耕起と畦畔除草が効果的です。

飼料用米でも、感染すると減収するだけでなく、病気の伝染源になってしまつため、水稲育苗箱薬剤剤の使用をお勧めします。



イネ縞葉枯病の葉の感染の様子

農業三士の紹介(新任・退任)

茨城県では、地域農業の振興のために活躍いただく優れた農業者や、将来地域農業の担い手となる農業者を農業三士(農業経営士・女性農業士・青年農業士)として県知事が認定しています。平成二八年度は管内から青年農業士一名が認定され、一名が退任されました。

【青年農業士 新任 菅野 大志氏】

菅野氏は、常陸大宮市でいちご経営を行っています。様々な品種を栽培し、庭先販売や地元の直売所に出荷しています。品種ごとの特性を積極的に説明して顧客をつかみ、着実に規模拡大と技術向上を図っています。また、自身の取り組みを新規就農者に助言してきており、今後とも地域内外の青年リーダーとしての活躍が期待されることから、この度認定を受けました。



青年農業士
菅野 大志氏

【青年農業士 退任 菊池 重明氏】

菊池氏は平成二三年に認定を受けてからご活躍いただき、この度退任となりました。今後も和牛肥育経営をはじめ益々のご発展を期待いたします。

農業入門講座の取り組み

普及センターでは、農業の担い手の確保・育成を目的として、新規就農者や中高年者の方を対象に、農業入門講座を開催しています。

講座は、毎年、常陸大宮市と大子町において七月から翌年二月まで年計七回程度、開催しています。今年度は、道の駅常陸大宮内に規模の大きな直売所がオープンしたこともあって、直売出荷に意欲を持った方など両市町で五〇名が受講しています。

受講者の多くは家庭菜園などの農業を行っている方で、直売所やJAに出荷しながら更に技術の向上を目指す方もいます。

主な講座内容は、野菜や花の病害虫対策や土壌改良・施肥の方法、地域の代表品目(奥久慈なす、ロマネスコ、枝物、切り花等)の栽培方法についてで、講義や実習、ほ場見学を実施しています。今年七月には、先進農家のほ場で、ナスの剪定やハナモモの芽摘みの現地研修を行い、八月は、農作物の病害虫対策と農薬の適正使用について学ぶとともに、近年管内で増えているロマネスコ、茎ブロッコリー及びストックの種を行い、各自が栽培に取り組みました。九月には、先進農家へ再度訪問し、各自の栽培管理について受講生同士でほ場を見ながら情報交換を行いました。

毎年、講座受講者のうち数名が、野菜や枝物の販売農家になっています。今後も、地域の直売所や市場へ出荷できる農家の育成を目標に意欲のある方を支援するため、関係機関と連携して講座に取り組んでいきます。

※過去に多発生したほ場では、定植前の土壌消毒剤と組み合わせる予防のための定期的な薬剤防除が重要です。

②生育期の薬剤防除(例)
(ネギ白絹病に登録のある薬剤利用)
定植後、病害発生前(または発病初期)に商品名「アフェットフロアブル」を株元かん注(但し、収穫一四日前まで)します。

・連作を避けます。
・排水不良ほ場は排水対策をします。
・発病株を見つけたら、ほ場外に持ち出して処分します。
・作付け前または収穫後に、天地返しを行って、菌核を埋没させ、死滅させます。(菌核は10cm以上の深さで生育しにくい)

①耕種防除
ネギの連作ほ場を中心に白絹病の被害が多くなっています。
白絹病は、土壌伝染する病害で、六〜十月に、地際部付近に白色で絹糸状の菌糸を生じ、進展すると淡褐色のあわ粒状の菌核ができます。やがて被害部分は、褐変腐敗して、下葉から黄化し、しおれます。



ネギ地際部付近に発生した白絹病の菌核

ネギの土壌病害「白絹病」の対策

平成28年度新規繁殖和牛経営入門講座内容

回	日時	場所	内容
第1回	7/9(土)	肉用牛研究所	開講式(講義)牛の飼養管理と飼料給与(実習)肉用牛研究所内見学
第2回	8月	各受入れ農家	農家体験実習①
第3回	9/10(土)~9/11(日)	各受入れ農家	農家体験実習②③
第4回	9/11(日) (1泊2日)	奥久慈町の森(大子町高柴)	受講生と農家の交流懇談会
第5回	10月~12月	各受入れ農家	農家体験実習④
第6回	10/27(木)	肉用牛研究所	(実習)牛の精液採取見学 簡易電気柵の設置 等
第7回	12/3(土)	肉用牛研究所	(講義)繁殖和牛経営について 各種就農支援制度について (実習)牛の体形審査
第8回	平成29年1/16(月)	大子家畜市場 他	(実習)市場視察 (講義)肉用牛情勢について 等 意見交換 閉講式

新規繁殖和牛経営入門講座の紹介
新規繁殖和牛経営入門講座は、六年目となりました。五年間で四六名が受講し、うち繁殖和牛経営開始者が七名います。
今年度は、受講生が二四名、実習受入れ農家一戸(常陸大宮市一戸、大子町七戸、常陸太田市・北茨城市・高萩市各一戸)で開講しました。受講生は茨城大・県立農大の学生や肥育農家、酪農家、一般非農家の方で、年齢は一〇から六〇歳代と幅広いです。講義の詳しい内容は左表のとおりで、基礎的な講義と農家実習です。学校では学べない具体的な講義や和牛繁殖農家の実際の飼育管理、経営、農家生活について学べ好評です。
来年度も開講予定です。新規に和牛繁殖経営を開始したいと考えている方はどうぞ応募して下さい。

平成29年度茨城県立農業大学校 学生(一般入学後期)募集のご案内

◎農業の実践力を養います。
◎4年制大学への編入資格も得られます。
◆募集学科：農学科4名程度*、畜産学科1名程度*、園芸学科3名程度* (※一般入学後期では各学科定員の1割程度)
◆修業年限：2年
◆願書受付：平成29年2月6日~2月24日
◆試験日：平成29年3月3日
◆出願資格：高校等を卒業した者又は平成29年3月に卒業若しくは修了見込みの者
◆選抜方法：筆記・口述試験、調査書

産地を支える担い手を確保するために
茨城県では新たに農業を始めた方のために、農業研修支援制度(青年就農給付金(準備型)とニューファーマー育成研修助成事業)があります。これまでにこの制度を活用して当地域に就農した事例は、露地野菜経営(ナス)、施設野菜経営(イチゴ)、酪農経営などです。この制度は、指定を受けた先進農家での一年以上の農業研修が対象となります。要件がありますので、詳細につきましては普及センターへお問い合わせください。
今年度は、産地の維持発展に向けた新たな取り組みも始まりました。JA常陸大宮地区ねぎ部会となす部会は、農業研修生を募集し、希望者に対して農業研修指導から就農までを部会ぐるみで支援することになりました。
当地域に一人でも多くの若い農業者が定着できるように、支え育てていきましょう。

健康な土づくりをしよう
冬季を利用して、次作に向けた土づくりをしましょう。
①良質な堆肥の施用
堆肥の適切な施用は、作物への養分供給とともに、土壌の物理性(排水性、保水性、通気性等)・化学性・生物性(微生物多様性等)を改善することができます。一方で、家畜堆肥の場合はチッソやカリ、リン酸も多く含んでおり、養分過剰を防ぐためにも、堆肥は適切な量を施用しましょう(表2)。
なお、未熟な堆肥は、生育障害を起しやすいため、注意が必要で、注意が必要で

表2 牛ふん堆肥(副資材例 おがくず)の施用基準

作物分類	施用量(t/10a)	チッソ供給量の目安(kg/10a)*
水稲	0.3	0.9
野菜、花き	1.5~2.0	4.5~6.0
果樹	1	3.0

*牛ふん堆肥の全チッソ1%, 肥効率0.3として試算

③施肥
主食用米栽培よりも多めの施肥をおこない、飼料用米専用品種では、窒素施肥量(基肥+穂肥)はコシヒカリの二倍程度(窒素成分でプラス一〇㏄あたり五kg程度)を施用します。
完熟した堆肥を一〇㏄あたり五〇〇kg〜一〇〇〇kg作付前に施用すると地力向上や根の発達促進による収量増加が見込めます。

④適切な水管理
活着後は分けつを促進するために浅水管理をし、有効茎数を確保したら中干しを実施します。中干しをすること

飼料用米専用品種の栽培ポイント
飼料用米の栽培は、主食用米と違い、食味や品質よりも収量を多くとることが収益に大きく影響します。
①品種の選択
表1を参考に、主食用米等との作業が重ならないような品種や移植時期を選びます。飼料用米専用品種は、主食用米よりも倒伏しやすく、多肥栽培により多収が見込めます。
②移植時期
気温や日照時間等が良好な条件で登熟し、いもち病や倒伏などのリスクを軽減するためには、五月下旬までに移植を行います。
③収穫
収穫適期は、穂首近くに緑色を残した刈り取りが全体の一割程度になった頃以降です。専用品種はコンバインにかかると、走行速度をおとす、刈り取り条数を減らす、高刈りする等、コンバインの負担軽減を図りましょう。また、収穫前に立毛乾燥を行うことで、主食用米との作業調製と乾燥コストの削減をしましょう(ただし、倒伏、穂発芽、鳥害などに注意が必要です)。

⑤病害虫防除
いもち病、斑点米カメムシ類など、必要に応じて防除を行います。いもち病においては、登録がある農薬を箱施用することで大きな効果が期待できます。
⑥収穫
収穫適期は、穂首近くに緑色を残した刈り取りが全体の一割程度になった頃以降です。専用品種はコンバインにかかると、走行速度をおとす、刈り取り条数を減らす、高刈りする等、コンバインの負担軽減を図りましょう。また、収穫前に立毛乾燥を行うことで、主食用米との作業調製と乾燥コストの削減をしましょう(ただし、倒伏、穂発芽、鳥害などに注意が必要です)。

表1 主食用品種および飼料用米専用品種の特性

	品種名	移植日	出穂期	成熟期
主食用品種	ゆめひたち	5月下旬	8月上~中旬	9月中~下旬
	コシヒカリ(比較)	5月下旬	8月上~中旬	9月中~下旬
専用品種	夢あおば	5月下旬	8月上	9月中~下旬
	オシアオバ	5月下旬	8月中~下旬	9月下~10月上旬

枝物の挿し木繁殖の技術
枝物品目の繁殖方法の一つに挿し木があります。特に管内で栽培が盛んなヤナギ類やサングミズキは、本圃に直接挿す直挿しが可能な品目です。
①挿し木繁殖の時期
春の萌芽前の枝が挿し穂に最適です。三月上旬~中旬が適期になります。
②挿し穂の調製
枝を切り取り、下部の花芽の付いていない部分を使います。太さ1cm程度の充実したところを長さ二五~三〇cm程度に調製し、一晩水揚げします(写真)。
③ほ場の準備
防除や収穫の作業性を考慮し、畝間二〇~二〇〇cm、ベッド幅五〇~六〇cm、排水性を良くするため高畝とし、乾燥と雑草防止のため黒マルチを張ります。株間六〇~九〇cm、一条植えて挿し穂の1/3程度を直挿ししますが、サングミズキはやや活着が悪くなるため、挿し床に一〇cm×六cm間隔で挿し、翌年の三~四月に定植する方法もあります。



リンゴの効果的なハダニ類の対策
リンゴは、ハダニ類による葉の吸汁被害が多くなると、果実品質(糖度・着色・果実肥大)、翌年の花芽形成、樹の生育等に悪影響を及ぼします。被害の多い加害種は左記の二種です。
【リンゴハダニ】リンゴ樹上で、卵態で越冬し、開花期の数日前(四月中~下旬頃)にふ化が始まり、梅雨後半までに成虫が樹全体に移動し、七~八月は増殖を繰り返して加害程度も多く、秋季に樹上に越冬卵を生み付けます。
【ナミハダニ】リンゴ樹の樹幹・大枝の粗皮下や園地の枯れ草・落ち葉の下等で、雌成虫で越冬し、春に気温が上がると、下草等に移動して六月頃まで増殖を繰り返します。梅雨明け後七~八月に草刈りや除草剤等で下草が枯死・減少すると、樹への移動も活発になって徒長枝から樹全体に増殖・加害し、晩秋には休眠虫が増えます。
【ハダニ類防除の考え方】①休眠期に粗皮削りと落ち葉さらい、芽出し直前直後に薬剤散布(商品名「ハーベストオイル」)を行い、発生密度を下げます。
②夏季の殺ダニ剤要否の目安は、主枝直上の新梢中位葉で、一葉当たり二個体以上成虫を認めるときです。農業は適正に使用し、散布ムラに注意しましょう。

健康な土づくりをしよう
冬季を利用して、次作に向けた土づくりをしましょう。
①良質な堆肥の施用
堆肥の適切な施用は、作物への養分供給とともに、土壌の物理性(排水性、保水性、通気性等)・化学性・生物性(微生物多様性等)を改善することができます。一方で、家畜堆肥の場合はチッソやカリ、リン酸も多く含んでおり、養分過剰を防ぐためにも、堆肥は適切な量を施用しましょう(表2)。
なお、未熟な堆肥は、生育障害を起しやすいため、注意が必要で、注意が必要で

リンゴの効果的なハダニ類の対策
リンゴは、ハダニ類による葉の吸汁被害が多くなると、果実品質(糖度・着色・果実肥大)、翌年の花芽形成、樹の生育等に悪影響を及ぼします。被害の多い加害種は左記の二種です。
【リンゴハダニ】リンゴ樹上で、卵態で越冬し、開花期の数日前(四月中~下旬頃)にふ化が始まり、梅雨後半までに成虫が樹全体に移動し、七~八月は増殖を繰り返して加害程度も多く、秋季に樹上に越冬卵を生み付けます。
【ナミハダニ】リンゴ樹の樹幹・大枝の粗皮下や園地の枯れ草・落ち葉の下等で、雌成虫で越冬し、春に気温が上がると、下草等に移動して六月頃まで増殖を繰り返します。梅雨明け後七~八月に草刈りや除草剤等で下草が枯死・減少すると、樹への移動も活発になって徒長枝から樹全体に増殖・加害し、晩秋には休眠虫が増えます。
【ハダニ類防除の考え方】①休眠期に粗皮削りと落ち葉さらい、芽出し直前直後に薬剤散布(商品名「ハーベストオイル」)を行い、発生密度を下げます。
②夏季の殺ダニ剤要否の目安は、主枝直上の新梢中位葉で、一葉当たり二個体以上成虫を認めるときです。農業は適正に使用し、散布ムラに注意しましょう。